

# 店長の平均年収 595万円に 新卒世代の店長が活躍

店長の年収は減少を続けている。バック・エックスが運営するパチンコ業界転職サイト「パチンコキャリア」を訪問したホール関係者の回答によると、2010年度(2010年4月～2011年3月)における店長の平均年収は595万3082円。ついに600万円を切ったことが分かった。

## 店長の年収は 全体的に減少傾向

今回の調査では、店長の年齢構成が30歳以下は17.3%、31～35歳は40.6%、36～40歳は21.1%、41歳以上は21.1%と、35歳以下の若手が6割弱を占めている。2007年6～9月にバック・エックスがまとめた結果と比べ、30歳以下が約7ポイント減少、40代が約9ポイント増加し、母集団の年齢層は上がっている。

前回の調査では、店長の平均年収は606万2899円だった。調査期間、母数、年齢構成が異なるため、単純な比較はできないが、この3年間で店長

の年収は約9万円減っている。この結果についてバック・エックスの統括マネージャー・松林孝証氏は、以前の調査に比べて年収1000万円以上の店長は減少して、今回の調査では1%程度しかないため、平均値が押し下げられたからだという。

「年収1000万円以上の店長は旧態依然のホール企業に多い。こうした店長の中には釘調整と機械選定だけをやっていたら営業で来た時代の人も多く、現在の転職市場にはあまりでこなくなつたため、今回の結果に現れなかったのではないかと。現在のエース店長でも、年収は750万円くらいが妥当な線」

しかし、07年の調査結果と比べ、年

収500万円以上の各層で構成比が減少している。一方で、年収400万円未満との回答が5.2ポイント、400万円台が1.3ポイント増加し、年収が減少傾向にあることが伺える。

あるホール企業の役員者は、「自社の店長の年収も700万円から635万円まで下がっている。営業を管理する本部スタッフが増えたことで、以前の店長に比べて今の店長の業務内容が減つたこと、福利厚生が充実して以前のように休日が少ない分を給料で埋め合わせするということがなくなくなったことも要因だ」と見ている。

また、別のホール企業の役員者は「かつては不正を抑制するために、高給を与えていた面もあるのでは」と言う。

## 高収入の店長ほど 企業の将来性に不安

年齢層別に年収を見ると、31歳～35歳では年収700万円以上の層が最も多く、44.5%にも上る。新卒採用が定着して、優秀な人材がホール企業に入社し始めたのが今から約10年前。その頃入社した新入社員が31～35歳の層に当てはまるので、正当に実力が評価された結果だろう。若くして店長に抜擢された30歳以下の層では、400万円未満が39.1%も占めている。この点について松林氏は「キャリアパスを整備している企業の中には、店長をキャリア

ている。しかし、若手の店長は人材育成が店長の役割と捉える傾向が強い」

店長の離職理由は得ている年収で大きく異なる。400万円未満では「年収」との回答が35.7%と最も多いが、400万円以上600万円未満で「キャリアアップ」との回答が最も多く、「企業の将来性」が続く。しかし、600万円以上では、この2つが逆転

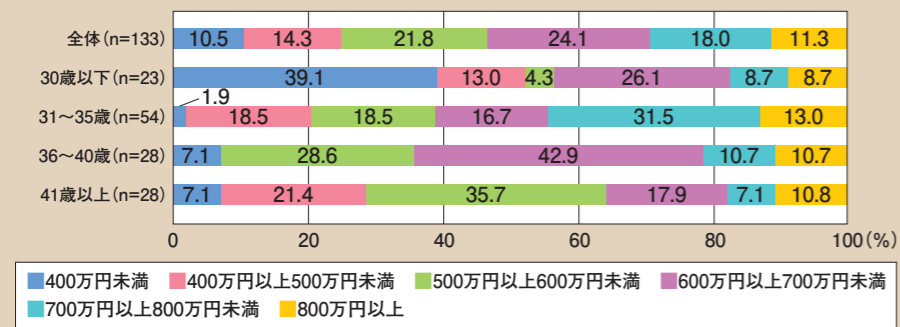
し、「企業の将来性」が最も多く、「キャリアアップ」が続く。

「年収が下のクラスの店長は、上司にエリア長などがいるため経営層の本音は伝わりにくい。年収が上のクラスの店長ともなれば社内での地位も高く、経営層の本音が伝わってくる。その際「この会社の方針でいいのか」と不安に感じることがあるから、転職理由

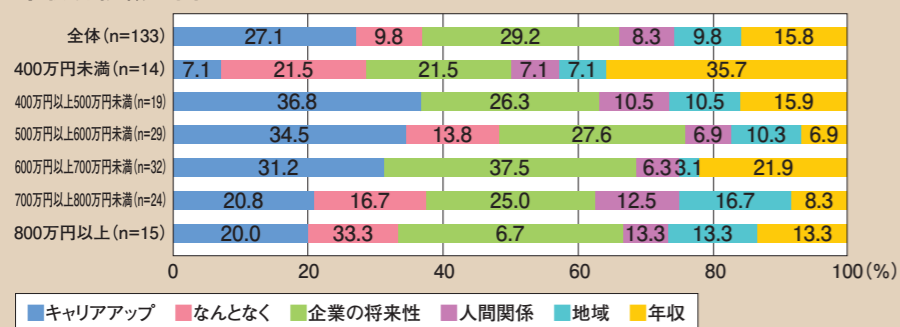
で「企業の将来性」を挙げる声が多いのではないかと(松林氏)

エリア長以上の役職は、店長に比べて当然年収は高く、800万円以上の回答が43.8%にも上る。また、得意分野では、教育・マネージメントとの回答の比率が高いが、これは若手店長とはことなり、役職として求められている結果だろう。

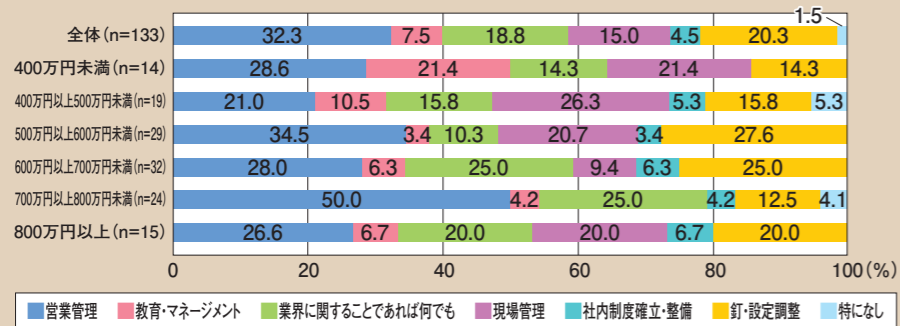
年齢構成別年収



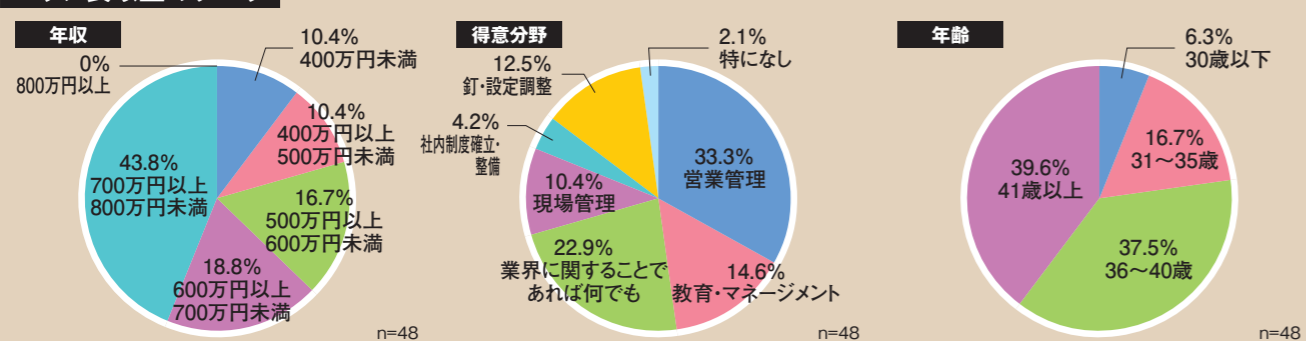
年収別転職理由



年収別得意分野



エリア長以上のデータ



### 調査要領

- 調査対象者/バック・エックス運営のパチンコ業界転職サイト「パチンコキャリア」を訪問したホール関係者
- 調査方法/インターネットによる調査。「パチンコキャリア」のトップページに設けたバナー(年収査定)からアンケート画面に移動し、回答してもらう方法。現在の年収は実数、そのほかの回答項目は選択肢より選択
- 調査期間/2010年4月～2011年3月
- サンプル数/813人

アのゴールとせず、エリア長、ブロッカー、営業本部長とキャリアアップの道筋を立てているので、若いうちに店長を経験させようという狙いがあるからではないかと推測する。このほかに、ホール企業は店長の若返りを図りつつ、人件費の削減に努めていることも考えられる。

それでは、どのような店長が高額な年収を手しているのだろうか。年収600万円以上では他の層と比べて「業界に関することであれば何でも」という回答が多い。

年収400万円未満では、他の年収層に比べて教育・マネージメントとの回答が多いが、これは若い店長によくある傾向だと松林氏は指摘する。

「能力が評価されて年収が高い、もしくはベテランの店長になればなるほど、店長の役割は最終的には店の利益確保と位置づけ、人材育成や接客指導などはそのために必要な要素だと捉え